

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	医療法人 臨生会 グループホームそよかぜ館アネックス A棟	評価実施年月日	平成22年2月1日～2月8日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月8日～2月17日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	楽しく安心して暮らせることを目標に、職員全員で作り上げた理念がある。		今後も理念に沿ったサービスを提供し、自分らしく自由に暮らせる施設作りを取り組んでいきたい。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	事務所・居間に理念を掲示し、毎朝申し送り後声に出して読み上げ確認している。		今後も職員全体で理念を共有し実践できるよう取り組んでいきたい。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、その会議の中で家族・町内会長・市職員の方々に日々の暮らしを具体的に伝え理解してもらうよう取り組んでいる。		今後も通信を町内会会館に掲示してもらい入居者の日々の暮らしぶりを、地域の方々に理解してもらえるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	通勤時や入居者と散歩に出た時は挨拶するよう心がけている。		今後も地域の方々と交流を深め、いつでも立ち寄ってもらえるような施設作りを取り組んでいきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	毎年町内の花壇の草取りに参加している。町内会の定期総会にも出席している。		今後も入居者が参加できる活動には参加し、地域との交流を深めていきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	昨年同様、近隣の高齢者にトラクターで畑を耕してもらった。運営推進会議で地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか町内会長と話し合いを行っている。		町内会長とも連携を取りながら、施設として地域の高齢者にできる事があれば取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	職員も自己評価に取り組む事で外部評価の意義を理解し、改めて日頃の環境や介護の取り組み方について確認することができ具体的な改善につながっている。	今後も評価の結果を全職員で話し合い改善に努めていきたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	運営推進会議は、利用者・家族・町内会長・市職員等に参加してもらい、具体的に資料を作成し、意見交換を行いサービスの向上に活かしている。	今後も運営推進会議を定期的開催し、施設での活動状況を報告し、意見を交換を行う事で、今後のサービスの向上に活かしていきたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	市包括支援センターから入居の相談があり現状の報告を連絡したり、要介護認定更新の手続きや、障害福祉課でスターのバウチ申請や、介護用品事業部とも連携を取り、サービスの向上に取り組んでいる。	今後も市役所やサービス事業者と連携を取り、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	権利擁護事業や成年後見制度の研修会がある場合は出来るだけ参加するようにしている。	研修等で学ぶことで、今後施設で必要な入居者に活用出来るように取り組んでいきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	高齢者虐待の研修会がある場合は出来るだけ参加出来るよう努め、施設内での虐待を見過ごさないよう注意している。	今後も転倒したり皮膚組織に紫斑が観察された時は、虐待が見過ごされていないか職員間で話し合い防止に努めていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	入居前に一度施設内を見学してもらい、パンフレットや資料で具体的に内容を説明することで理解を得ている。解約時は入居者の現状の身体症状を説明する事で納得されている。	今後も本人、家族等の不安が解消されるよう説明し、理解してもらえるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者がいつでも不平や不満を相談できるよう日々信頼関係に努めているが、なかなか利用者から言い出せない状況もあるので、定期的に個別的に何か相談が無いかな声を掛けるよう心がけている。		今後も苦情の相談を受けた場合は出来るだけ早くミーティングや朝のミニカンファレンスにかけ、苦情や相談に対応していきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月アネックス通信を郵送することで、一月の生活・活動状況を写真や文章で報告している。健康状態については、看護師と相談し、連絡の必要性がある場合は電話連絡を行っている。金銭管理は毎月出納簿で知らせている。職員の異動は通信と面会時に知らせている。		今後も家族等に施設での生活状況を報告していけるよう取り組んでいきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時には必ず面談するよう心がけ利用者の状況を報告している。その際に家族からの不満や苦情を聞き、その都度話し合っている。		家族に経過を伝えることで話しの中から不満や苦情が話される事もあり、早い解決に結びついている。また相談内容については申し送り等で職員に報告している。今後も不満や苦情を話せる雰囲気作りに努め、今後の運営に反映していきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から職員に、新しい発想や改善した方が良いと思われる意見を聞き、運営に反映させている。		今後も職員の意見や提案を反映させ、より良い施設にしていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況により家族と連携を取り、緊急時や必要な時間帯に職員を増やしたり、話し合いを行って勤務の調整を行っている。		今後も入居者や家族の要望に対応できるよう、職員と相談し勤務調整を行っていきたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	9月末に離職予定者が1名いたので、早めに8月より新規職員を採用し配置したこともあり、離職者が居なくなった後も、新たな職員が対応でき利用者へのダメージを最小限に抑えることが出来た。		今後も職員の異動や離職時は、利用者へのダメージが必要最小限に抑えられるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の状況や役割に応じて研修会に参加してもらっている。研修後には全職員で勉強会や報告会を行っている。</p>	<p>新人の研修や、看護や感染等は職員の役割に応じて研修会に参加してもらっている。今後も研修会への参加を取り入れていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域で行われた認知症やカンファレンス等の研修会に参加し、同業者とグループ討議や交流をする機会を取り入れ、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>今後も地域の同業者との交流を図るために、勉強会等への参加を取り入れ、より良いサービスが提供出来るよう取り組んでいきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>定期的カンファレンスを開催し、皆で話し合える環境を作っている。個別にも話をする機会が持てるよう心がけている。</p>	<p>職員がストレスにならないよう、気軽に話し合いができるような雰囲気づくりに努めていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は職員と一緒に介護業務を行うことで、職員個々の努力や実力・表情を把握している。</p>	<p>運営者は今後も職員との関係を密にし、個々の能力を把握し向上心を持って働けるよう相談・助言を行っていきたい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>初期には家族から得た情報を元に、本人が困っている事や不安に思っていることを聞くように心がけている。</p>	<p>入所後は経過を見ながら、わからない事や不安に思っている事を本人から聴き、その都度相談にのれるよう取り組んでいきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居時、入居前は家族との面談を行い、不安な事や意向を聞き、安心して生活していただけるよう信頼関係を築いている。</p>	<p>入居時から入居後も、家族と面談・相談を行い、常に、不安に思っている事や意向を聴く機会をつくり、随時対応していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所後利用者の状況を観察し、何を必要としているか、どうしてもらいたいのか等、環境に慣れるまでは家族と相談しながら必要な援助内容を取り入れている。		入居者が今一番求めているサービスを見極め今後も援助していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者と家族と一緒に来てもらい納得した上でサービスを利用してもらっている。不安な状況がある場合は家族に連絡し、来てもらう等相談や連絡調整を行っている。		すぐに馴染んでもらえるよう、入居者の性格や身体状況に合わせて、食卓テーブルの配置を考えており、今後も工夫していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	行事や活動、ゲーム等を入居者と一緒に取り組み参加することで、共に学んだり悩んだりして楽しんだりして共感し合う関係を築いている。		日本の伝統行事等、昔から行われてきている行事については、利用者から昔話を聞いたりして、由来や行い方を学んでいる。今後も共に喜怒哀楽を共にし、学び合える関係を築いていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の日々の生活の中で、楽しんでいたり怒っていたこと等を連絡し、その都度家族からの情報を聞き取り、今後も楽しく生活してもらえるよう共に協力し合う関係を築いている。		家族面会時に生活状況を連絡し、その都度利用者の性格や生活層等を聞くよう取り組んでいる。今後も継続していきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時には、必ず日常の生活状況を伝え、それに基づいて話し合えるように支援している。		面会の少ない遠方の家族には電話での連絡を今後も行っていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの友人や床屋への外出も行えるよう支援してきている。親戚や友人の訪問も多い。夫婦間の連絡も途切れないように支援に努めている。		馴染みの友人や知人、家族と交流が途切れないよう、今後も外出の支援、送迎等を行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の病状等により支えあったり、会話することが少ない為、毎日の水分補給時、ラジオ・リズム体操時、カルタ取り・カラオケ等の活動の機会を作り、利用者同士が関わり合えるように努めている。		毎日の食事・各種活動等の中において、会話が無い状態であれば、話題を投げかけ、和やかな雰囲気作りに今後も取組んでいきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他の施設に移った時は施設訪問時に意識的に訪問するように心掛けている。		今後もサービス利用が終了しても利用者や家族との関係を断ち切らないように心がけていきたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活において、常に本人の希望や意向を聞き、カンファレンス時に反映している。		今後も一人ひとりの思いや希望を把握していけるよう努めて行きたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個人の記録を把握検討し対応している。また、本人・家族関係者等の会話の中から情報収集に努めている。		友人・知人等の会話の中、或いは本人に問いかける等して新たな情報を得て行きたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	居室に本人にあった一日の過ごし方を貼っている。また、経過観察表に一日の経過をこまめに記入し記録している		今後も一人ひとりの状況を毎日記録し、現状を総合的に把握しサービスにつなげていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的なファレンスを開催し評価をし見直すことで、その都度本人の状態に合った介護計画を作成し職員が共有している。カンファレンスに本人や家族に参加してもらい一緒に計画を立てたり、参加できない場合は後日検討内容を報告している。		今後も利用者の状況に合わせて、カンファレンス開催し評価・見直しをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者に合わせて3ヶ月、6ヶ月の見直し期間を設けカンファレンスを開き評価・見直しをしている。利用者に状態変化があった場合は適宜カンファレンスを開いている。		今後も本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成していきたい。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や介護計画の実践・結果、気づいた事や変化のあった事等は個別記録に記入し、今後のケアに反映させている。情報を共有する為に「伝えたい事項」を別紙に記入し、一週間申し送っている。		今後も日々の様子などを個別に記録し、実践やケアプランの見直しに反映していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族との外泊、外出、外食等にはすぐに対応している。外出や買い物の希望、歯科や病院受診なども個別に対応してきている		今後も本人や家族の要望を柔軟に取り入れられるように職員間で協力し支援していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方々が施設に来館してもらい、入居者も交流を楽しんでもらっている。消防署からは年に1回、立ち入り検査を実施していただいている。		ボランティアの方々に来て頂く等、今後も地域資源を活用していきたい。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	介護老人保健施設、地域医療連携室、居宅介護支援事業所等と連携を取り、サービスの支援を行っている。		今後も、利用者の意向や必要性に合ったサービスが提供できるように、サービス事業者と連携を取っていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	市包括支援センター、高齢福祉係、保護係と連携を取り協働している。		今後も必要に応じて地域包括支援センターと連携を取っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	本人や家族の希望する医療機関や、病状に合った医療機関を受診できるように支援している。随時、母体病院の看護師に相談し助言を頂いている。		今後も、適切な医療が受けられるように支援していきたい。また、日頃から連携を取り利用者の急な状態変化などに対応していきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	市立病院担当医師の指示、助言、相談を受けている。		今後も定期受診を行い専門医からの指示や助言を受けていきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	施設として看護職を確保している。看護師は入居者の日頃の健康管理を行い、変化がある場合は早めに医療機関を受診するよう心掛けている。		今後も看護師と相談しながら入居者の健康管理に努めていきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者の身体状況に合わせて、事前に病院に相談し入院時や退院時の相談を行っている。		今後も地域医療連携室と連携を取り、情報交換を行うことで、入退院後も安心して過ごせるよう努めていきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	食欲低下や身体機能が悪化してきた場合は、家族と連絡を取り、医師より説明を受けた内容を全職員に伝え、方針を共有している。		症状や訴えが少ないだけに、重度化を早く察知し、家族と共に医療機関に出向き、今後の方針を全職員で共有していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	認知症の進行や身体機能の低下については、職員間で確認・検討し、かかりつけ医と共にチームとしての支援に取り組んでいる。		重度・終末期の入居者には、医師と連携を取り、家族の意向も聞きながら今後も支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入院時は関係者と情報交換を行い、施設での状況を詳しく伝えることで、住替えによるダメージを最小限に防ぐことができた。</p>		<p>今後も退所する場合は、退所先の家族や居住担当者と情報交換を行い住替えによるダメージを予防していきたい。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>最新の注意を払い状況に合わせた対応を行っている。介護記録の記入においても入居者の目の届かない場所に保管するよう配慮している。</p>		<p>今後もプライバシーを損ねるような言葉使いをしないように職員全員で心がけていきたい。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望等を聞き、その内容を職員同士で話し合い、本人の思いや希望に添えるように実施可能であれば支援している。</p>		<p>今後も入居者の意思を尊重し、その人らしい生活が過ごせるよう配慮していきたい。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ひとり一人のペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>		<p>今後も無理をせず、入居者のペースで過ごしてもらえよう支援していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の意思に基づき、身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。また、意思決定が出来ない状況の時は職員がアドバイスをしている。</p>		<p>今後も行きつけの床屋へ通えるよう援助していきたい。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>静かな雰囲気ですり取りされている場合には言葉を投げかけ、楽しい会話を持ちながら食事が出来るよう心がけている。テーブル拭きや配膳・下膳、茶碗拭きは入居者と職員が一緒になって行っている。</p>		<p>今後も入居者と一緒に食事提供が出来るよう心がけていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	家族が持ってきてくれたおやつ等は、お茶の時間にみんなで頂いている。食べたい物等の希望がある時は職員同行で買い物に行っている。入居者からもおやつ代を頂き職員が購入してお茶の時間の楽しみになるよう支援している。飲酒嗜好がある入居者には、特別な日(ジギスカンパーティー・外食時等)に、少量たしなんでもらっている。		今後も入居者の希望に応じて、お酒は行事や外食の際に、おやつは自由に購入して、いつでもいただけるような環境にしていきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表を確認し時間誘導することで失禁を予防している。一人ひとり動きにも注意しトイレ誘導を行っている。		動作や仕草に注意し、声かけやトイレ誘導を行うことで、失禁や汚染がより軽減するよう、今後も取組んでいきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間帯に限らず入居者の状況に応じて入浴してもらっている。入浴時は声かけしながら楽しんで入浴してもらえるよう心がけている。入浴の際は身体の観察も行っている。		拒否の多い利用者には、いつでも入浴できるような体勢を取っており、今後も入居者の意思を尊重して入浴を提供していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、いつでも休息したり入眠できるよう支援してきている。起床時間も本人の意欲を尊重している。		昼夜逆転が無いよう、夜間帯安心して眠れるよう日中の過ごし方や関わり方に留意して取組んでいきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の能力に応じて、食事の際のテーブル拭き、配膳、食器拭き等を声かけにより「してあげるよ」と言ってくれた時は手伝ってもらっている。金魚の餌やりの管理、夏場は家庭菜園の管理、花壇の管理等を分担で行ってもらっている。娯楽では、カラオケ・百人一首・カルタ・習字・歌ビデオ鑑賞・化粧療法等も楽しんでもらっている。		今後も入居者同士で役割を分担していくことで、日常生活に楽しみが持てるよう取組んでいきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者が買い物の希望がある場合は、職員が同行し「欲しい物」を購入している。個々の能力に合わせて、レジの支払いも自分で行ってもらっている。		今後もお金の管理が困難な入居者には、職員が同行で買い物に行き、支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	入居者の希望がある場合は、友人宅、図書館、床屋への送迎を行い、出かけられる機会を支援している。		外出の希望があった場合は、すぐに対応できるように支援していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事で季節に合わせ、神社参拝・雪祭り見学、お花見・夏祭り・ひまわり見学・紅葉狩り・買い物・食事会等出来るだけ全員参加できるように支援している。ユニットごとに分かれて少人数で食事会にも出かけている。		買い物や図書館、床屋等その日の希望に添えるよう職員間で連携を取り外出の支援を行ってきた。今後もできるだけ希望に添った外出が出来るよう取り組んでいきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話をかけられる環境を作っている。年賀状も書き家族に出されている。		遠方で面会の少ない入居者には、電話にて家族と会話が持てるよう支援している。これからも定期的に電話でコミュニケーションが図れるよう取り組んでいきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自由に訪問出来る環境を作っている。面会に来られた方ともコミュニケーションを取り、一緒に利用者を支えていけるような関係づくりをしている。面会時は居間や利用者の部屋でお話してもらい、ゆっくり過ごしてもらえよう配慮している。		今後もいつでも気軽に訪問できるような雰囲気作りをしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員同士声掛けを行い危険のない様に見守っている。入居者の中にはベットの柵を起居・移動動作に活用している方もいる。		今後も身体拘束ゼロに向けて取り組んでいきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	帰宅願望が強く精神混乱をきたす入居者もいる為やむなく施錠している。職員全員が鍵を携帯し即座に対応できるようにしている。		鍵をかけないケアに向けて、これからも話し合い検討して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入室の際必ずドアをノックして訪問し様子を確認している。利用者の居場所を常に把握し職員同士で声掛けあい安全に配慮している。		今後も入居者のプライバシーに配慮しながら、常に所在を確認し安全に配慮していきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の管理できる能力に合わせて針やハサミ等を所持してもらっている。職員は部屋のどの辺に保管しているか把握するようにしている。		今後も入居者の能力に合わせて見守り、危険のないよう取り組んでいきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者の個々の状況に合わせて、転倒や誤飲を予防している。事故が発生した場合は事故報告書を作成し、全職員で事故原因や今後の注意点などを確認し合っている。		今後も事故防止のため常に利用者を見守り、職員間の連携をとるように心がけていきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命救急講習会に職員全員が参加し、AEDの使用法、緊急時の対応・応急処置などを講習している。		今後も緊急時にすぐ対応できるよう、定期的に講習を受けていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は、月2回実施して、入居者が季節に合った服装で避難できるように、日頃から訓練を行っている。避難訓練後は車イスや歩行器使用の入居者も一緒に周囲を散歩したりしていることで、地域の方に入居者の身体状況を見てもらい緊急時に協力を得られるよう働きかけている。		今後も地域住民の協力を得られるように働きかけていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	体の状態や、体調の変化などによるリスクについては家族に説明し、状態に合わせて対応できるように話し合っている。		今後も家族とリスクへの対応について話し合いが出来るよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>表情や行動、言動の変化に気付いた時はバイタルサインを確認し、その時の状態や今後の対応についても情報を共有している。</p>	<p>今後も入居者の異変に気づき、食事量や水分摂取量、排泄状況のの確認に努め、職員同士で情報を共有していきたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個別に分包し、日付と時間を記入して内服を確認している。薬の目的や副作用、用法や用量については看護師の指示を受け服薬支援を行っている。</p>	<p>入居者がなるべく一人で飲めるよう見守り支援していきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>夏場は散歩に出掛け、冬場は施設内で体を動かす活動を取り入れている。排泄時に腹部のマッサージを行い排便を促すこともある。</p>	<p>冬場は外に出ることも少なくなるので、室内で体を動かせる活動を取り入れるよう工夫していきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日毎食後、口腔ケアを行っている。状態に応じ歯科の往診と歯科衛生士の指導を受けている。</p>	<p>口腔ケアは毎日の習慣として行えるよう、今後も食後の声かけを行っていききたい</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>献立は管理栄養士の指導の基に栄養バランスを取っている。入居者の状況や習慣に合わせて食べる量や形状を工夫し提供している。水分量も個々に把握し記録している。</p>	<p>飲料水は個別に冷たくしたり温めたりし等、今後も入居者の状況に合わせて提供していきたい。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染防止対策委員会が中心となり、感染症に対する対応の取り決めを実行している。消毒、うがい・手洗いを徹底している。</p>	<p>今後も入居者、職員の手洗い、うがいを徹底し。手摺り、トイレは塩素系の消毒液での清掃を継続していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>感染防止委員会が中心となって食中毒の予防に取り組んでいる。食器類や調理用具は毎週1回消毒液に漬けて消毒を行っている。食材をなるべく早く調理できるよう発注日を工夫している。</p>		<p>食中毒予防の為に今後も継続して消毒を行っていききたい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関まわりの環境を整備し景観に配慮している。冬期間は常に除雪に気をつけ、夏季はプランター等で花を植えたり、庭には椅子を置いていつでも休めるように工夫している。</p>		<p>玄関前に、冬期間は入居者とアイスクャンドルを飾りつけ、夏季は入居者とプランターで花壇作りを楽しんだ。今後も玄関・建物周辺の環境を整えて行きたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ソファやテレビ、ゲーム等があり自由に楽しめるように配慮している。</p>		<p>お正月:まゆだま、ひな祭り:お雛様、こどもの日:鯉のぼり、七夕:短冊、クリスマス:ツリー等、今後も季節感を味わってもらえるよう共有空間の飾り付けを行っていききたい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>利用者の意思を尊重し自由に過ごしてもらっている。廊下にソファを置いたり、玄関のスペースに椅子とテーブルを置き気軽に過ごせるように工夫している。</p>		<p>今後も、安心した場所で思い思いに過ごせるように支援していききたい。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人が使用していたソファやベッド、テレビ等を持参してもらったり、家族との写真や思い出の品を飾ったりしていることで安心感が持てるよう工夫をしている。</p>		<p>今後も家族の協力を得ながら、安心した居住空間を提供していききたい。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>毎日居間・居室の窓を一部開放して換気を行っている。個室と共有スペースとの温度差にも気を配っている。冬期間は居間・食堂等に加湿器を設置し湿度を保っている。</p>		<p>今後も換気をこまめに行い、過ごしやすい空調を管理していききたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>施設館内はバリアフリーになっており段差が解消されている。トイレ内・浴室・廊下には手すりが設置され安全な移動、移乗動作が出来るよう工夫されている。</p>	<p>身体状況に見合った椅子を用意し、安全で自立的な動作が行なえるよう配慮している。今後も個々の能力を把握し、自立的な生活が過ごせるように工夫していきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居間や食堂には随時時間が分かるよう数箇所に時計を設置してあり、手作りの大きなカレンダーで月日も分かるよう工夫している。毎月の行事のお知らせも伝言板に記入し季節感を味わってもらえるように工夫している。</p>	<p>カレンダーの交換は入居者に担当になってもらい出来る能力を活かしている。今後も毎月の行事を伝言板に記載し入居者がいつでも確認できるようにしていきたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭先にはテーブルや椅子を設置し、いつでもくつろげるよう配慮した。花壇や畑作業にて種まきから収穫まで楽しむ事ができるようにしている。</p>	<p>今後も夏季は庭先で活動を楽しんだり、施設の畑で野菜の手入れや収穫を楽しんだりしていきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある            数日に1回程度ある            たまにある            ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族            家族の2 / 3くらい            家族の1 / 3くらい            ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように            数日に1回程度            たまに            ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 毎月、行事計画を立てその季節に似合った行事を取り入れることで、季節感を味わってもらえるよう取り組んでいる。それ以外にも外出の機会を確保し、映画館や回転寿司、デパートの飲食店で好きな物を頼んで食べてもらったり等、外出の機会が増えるよう取り組んでいる。今後も外出の機会を増やして行くことで、地域との交流機会を増やしていきたい。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	医療法人 臨生会 グループホームそよかぜ館アネックス B棟	評価実施年月日	平成22年2月1日～2月8日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月8日～2月17日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>利用者が安心して暮らせることを目標に、全職員で作り上げた理念がある。</p>		<p>介護者自身が前向きに楽しんでケアを出来るように理念の大切さを理解していく。</p>
<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎朝、実践に向けてアネックス理念と介護理念を読み上げている。</p>		<p>利用者中心のケアに繋がるように毎朝交代で読み上げていく。</p>
<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議を通して、家族や町内会長、市職員等に活動内容を伝え理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		<p>アネックス通信で日々の様子を伝えていく。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>通勤時や入居者と散歩に出た時は挨拶するよう心がけている。</p>		<p>今後も地域の方々と交流を深め、いつでも立ち寄ってもらえるような施設作りに取り組んでいきたい。</p>
<p>地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>毎年町内の花壇の草取りに参加している。町内会の定期総会にも出席している。</p>		<p>今後も入居者が参加できる活動には参加し、地域との交流を深めていきたい。</p>
<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>昨年同様、近隣の高齢者にトラクターで畑を耕してもらった。運営推進会議で地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか町内会長と話し合いを行っている。</p>		<p>町内会長とも連携を取りながら、施設として地域の高齢者にできる事があれば取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	職員個別に資料に基づき自己評価を行い外部評価の意義を理解し、具体的な改善に取り組んでいる。	基本的に沿って行われているか評価を繰り返して来たが、今後は基本を踏まえて利用者中心のケアに結びついているかの改善に取り組んで行く。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	運営推進会議は、利用者・家族・町内会長・市職員等に参加してもらい、具体的に資料を作成し、意見交換を行いサービスの向上に活かしている。	今後も運営推進会議を定期的開催し、施設での活動状況を報告し、意見を交換を行う事で、今後のサービスの向上に活かしていきたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	市包括支援センターから入居の相談があり現状の報告を連絡したり、要介護認定更新の手続きや、障害福祉課でスマーのパウチ申請や、介護用品事業部とも連携を取り、サービスの向上に取り組んでいる。	今後も市役所やサービス事業者と連携を取り、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	権利擁護事業や成年後見制度の研修会がある場合は出来るだけ参加するようにしている。	研修等で学ぶことで、今後施設で必要な入居者に活用出来るように取り組んでいきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	高齢者虐待の研修会がある場合は出来るだけ参加出来るよう努め、施設内での虐待を見過ごさないよう注意している。	今後も転倒したり皮膚組織に紫斑が観察された時は、虐待が見過ごされていないか職員間で話し合い防止に努めていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	運営規定、契約内容、重要事項等について説明し、本人や家族等の不安や疑問点を伺い説明している。	今後も、不安にならないように説明を繰り返し行い、状況に応じながら取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が職員と一対になれる時間帯に不満とか苦情を聞くようにしている。苦情があった場合は職員間で共有し、運営に反映している。		苦情や問題点が生じた場合は、会議やカンファレンスを開き早めに対応し解決出来るようにしている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者の暮らしぶり、健康状態はアネックス通信で写真を多く取り入れ家族が一目で分かるように暮らしぶりを伝えている。金銭管理は毎回出納簿で知らせ、職員の異動も通信の他に面会時に知らせている。		家族の面会時には、必ず口頭でも伝えている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の面会時には必ず面談をすることで苦情等の様子が伺えるので、その都度、又は内容によっては確認し運営に反映させている。		今後も継続していく。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	常に職員のコミュニケーションを取り意見を聞きながら反映させている。		今後も、常に意見や提案が反映されるような取組んでいきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族の要望に応じられるように常に職員の配置を考えている。		職務調整には職員の意見を聞きながら状況にあった調整を行っていく。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	管理者や職員の離職・異動には、利用者へのダメージが必要最小限に抑えるよう努力している。		異動のため連携が不足したり、不安に落ち込んだりしたため、利用者に影響しないように取組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>必要に応じて研修を受けてもらっている。研修後は全職員に勉強会や報告会を行っている。</p>	<p>全職員が研修に参加できるように働きかけていく。また、研修の成果が現場に活かされるように取り組みたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域で行われた認知症やカンファレンス等の研修会に参加し、同業者とグループ討議や交流をする機会を取り入れ、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>今後も地域の同業者との交流を図るために、勉強会等への参加を取り入れ、より良いサービスが提供出来るよう取り組んでいきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>ストレスを感じている様子があれば直接本人と話し合ったり、勤務作成に支障のない範囲で希望を取り入れストレスを発散してもらっている。</p>	<p>異動や採用で報告・連絡・相談が軌道に乗れずストレスの原因になったと考えられ職員会議で年間目標として取り組んだ。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の実績を把握し段階に応じた研修に参加してもらい自信を持って働けるようにしている。</p>	<p>研修には1つでも多く参加できるように働きかけていく。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>初期には本人もどうして良いか迷っていることが多いので声かけを大事にしている。</p>	<p>本人・家族・職員との連絡を密にし本人が不安なこと、困っていることを手助けするように取り組んでいく。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居時は支援相談員を中心に、家族が困っていること、不安なことを具体的に聞く機会を作り、施設見学をしてもらい信頼関係を築いている。</p>	<p>家族の訪問時には、本人の思いを伝えたり、家族の思いを取り入れたたり、安心して帰ってもらえるように面談を必ず行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状況を具体的に説明し在宅での状況との違いを見極め、それに合ったサービスを選択している。		本人が環境に慣れないうちに、サービスの利用が無駄にならないように家族とも相談しながら対応している。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が納得したサービスであっても、いきなり開始するのではなく、職員や雰囲気に馴染んでから行うよう家族にも働きかけている。		継続していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	買い物、調理時には、ラーメン・回転寿司と外食で共に楽しみ、日々の生活や利用者の昔話から喜怒哀楽を共有している。		外食は食材検討会で入居者の食事に対するアンケート調査より生じたことから実施している。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた時、利用者の状況について家族と話し合い共に支えるケアに心がけている。		継続していく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時には必ず本人と家族、職員が一緒になり日常の様子を伝え、それに基づいて話し合えるよう支援している。		家族と話し合った後は、本人と家族だけの時間を大切にしている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	親戚や友人、町内会の面会は自由に来ていただいている。買物に出掛けた時は、昔の仲間や知人に逢って楽しく話しをしている。		買物で知人に逢った時は、生き生きとした表情で話しをしている。馴染みの場所と馴染みの人達に逢えるように外出の頻度が増えるように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	出来るだけ利用者同士で会話の機会を持てるような雰囲気を作り出すことで利用者自身に思いやりや自然な言葉掛けが生まれている。		職員の一言で行動が制限されたり、自主性を失うことがある。職員の関わり方だけで利用者は自ら行動に移せているため、これからも継続して見守りたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他の施設や病院に移られた時は、訪問時に面会しているが家族とは出会う機会が少ない。		今後もサービス利用が終了しても利用者や家族との関係を断ち切らないように心がけていきたい。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人が理解出来る限り意向に添える様、かかわっている。常々家族にも本人の意向を伝えることで新たな情報を得ることがある。		今後も、利用者の思いを実現できるよう職員間や家族と共に支援していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族の面会時にホームでの生活状況を伝えたり外出、外泊した後で情報を得ることでその方の生活歴が分かり、今後の支援に活かされている。		外出、外泊時の情報がもっと増える様に家族との連携を密にし記録に残したい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	閉じこもりにならない様、生活リズムを把握している。誘い方の工夫を凝らし、自らの判断で行動できるよう見守っている。		職員の行動が利用者の負担にならない様に取り組んでいく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	計画の見直し時期には家族の面会時に希望を聴取しカンファレンスに反映し共有している。		今後も継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ユニット間で職員の異動や研修が入り期間に応じた見直しに遅れが生じている。幸い現状に大きな変化もなく経過されている。家族にはその都度現状を報告している。		現状に即した見直しを行っていく。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員の異動や新採用者が増え現状に慣れるまでに時間を要しているため記録や情報量が減少している。		申し送りやカンファレンスに活かしながら報告・連絡・相談を徹底していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	毎月の行事などは夜勤者除く全職員が参加できるように計画し、手作りのケーキや紅白饅頭・桜餅・余興、節分には鬼と福の神に変装したり柔軟な支援を行っている。		車を利用した、ラーメン・回転寿司ツアー・雪祭り・ショッピングセンター等への外出も取り組んでいる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方々が施設に来館してもらい、入居者も交流を楽しんでもらっている。消防署からは年に1回、立ち入り検査を実施していただいている。		ボランティアの方々に来て頂く等、今後も地域資源を活用していきたい。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	介護老人保健施設、地域医療連携室、居宅介護支援事業所等と連携を取り、サービスの支援を行っている。		今後も、利用者の意向や必要性に合ったサービスが提供できるように、サービス事業者と連携を取っていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	市包括支援センター、高齢福祉係、保護係と連携を取り協働している。		今後も必要に応じて地域包括支援センターと連携を取っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	本人や家族の希望する医療機関や、病状に合った医療機関を受診できるように支援している。随時母体病院の医師に連絡し指示を受けている。		今後も早めの受診で急な状態変化を未然に防ぐよう支援していきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期的に市立病院神経科の担当医に相談しながら、治療を受けている。		今後も、担当医と連携を取りながら薬の増量がないような支援をしていきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を確保している。日常の健康管理は常に行い利用者に変化があれば早目の対応で病院受診を行っている。		母体病院や老健施設の看護師と連携を深めていく。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	母体病院の「地域医療連携室」や支援相談員と連携し早目の退院に向けて情報交換を行っている。		今後も、利用者の入院があった場合、早期に退院できるように情報を共有し対応していきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用者の身体機能の低下などが見られる場合、家族に連絡相談し、家族と共に直接医師からの説明を受け、今後の方針を職員が共有している。		症状や訴えが少ないだけに早目に重度化を察知し、医療機関に出向き今後の方針を家族と共に取り組んでいく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者の身体状況や認知症状の重度化については、家族も含め精神科医と連携を取っている。又、バイタルサインの変化によっては早目の見極めでかかりつけ医に連絡して受診している。		バイタルサインに異状値を示さない限り水分補給と食事介助を含め全身ケアに取り組んでいる。看取りの手順、資料も準備されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入院時は関係者と情報交換を行い、施設での状況を詳しく伝えることで、住替えによるダメージを最小限に防ぐことができた。</p>		<p>今後も退所する場合は、退所先の家族や居住担当者と情報交換を行い住替えによるダメージを予防していきたい。</p>
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>会話の中に笑顔が見られるように働きかけている。常に年長者であること「介護させて頂く」を意識してかかっている。言葉かけや声の大きさに気をつけている。</p>		<p>プライバシーを損ねるような言葉かけをしないように心がけていく。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者が自主的に日常の家事に携わるよう余計な声掛けは控えつつ出方を待つように見守っている。</p>		<p>負担にならないように楽しみながら参加出来るように取り組んでいく。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>業務優先になりやすく、利用者一人ひとりのペースに合わせた生活が送れるように支援していきたい。</p>		<p>利用者が行動に移せるまで待つことの大切さ、動きがあった時に対応出来るようチームで共有していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>自分で化粧品を持っている人は、毎朝、口紅やファンデーションをつけている。口紅の色を褒めたり、盛り上げるよう努めている。定期的に化粧療法を行い、2～3ヶ月おきに美容師に来てもらっている。</p>		<p>化粧療法は出来た時、皆さんは生き生きと輝いているため、今後も、おしゃれや身だしなみが出来るように継続していく。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>出来ることを活かして、みそ汁を作ったり、米を研いだり、味見をしたり、昔ながらのメニューがあれば一緒に作る。</p>		<p>嚥下困難な利用者への嚥下訓練を継続して行い飲み込みが上達すると同時に食事への工夫も凝らしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	行事で外食に出掛けた時は、お酒の好きな方は日本酒、ビールを飲むこともある。また、希望に合わせて買い物に同行し本人の希望に添えるよう努めている。		体重管理も含めて、お茶の時間におやつを食べてもらっている。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	ケアプランで実行し取り組んでいる。		継続していく。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回の割合で入浴している。体調の具合や汚染した利用者は、その都度入浴してもらっている。昔話をしながら楽しめるように支援している。		継続していく。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者によって痛みがあったり、足の痛みの訴えがあるので、状況に合わせて軟膏などで対応している。寝る前の排泄誘導することで安眠につなげている。		継続していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	行事企画でその方の得意なことを生かしてみたり、外食を楽しめるよう企画を立てている。		踊りや歌の好きな方がいるので日常の中に取り入れ、町内会などの外部の行事に参加できる機会を持ちたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理の可能な方には希望に添えるよう対応している。隣接する老健の売店、ショッピングセンター、セイコーマートに出向いた時は好みの商品を購入するのを見守っている。		お金の所持できない利用者は、食事会とか買い物ツアーの時に使うように支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物に同行したり、外部からの誘いに応じて(友人、ボランティア、町内会)希望に添えるよう努めている。		今後も継続していく。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	バスハイクや外食の企画を立て楽しめるよう工夫している。通信を利用して家族にも伝え参加を促している。		ボランティアの協力で畑作業の手伝い、他の施設の友人に面会に行ったり、また、ラーメン専門店、回転寿司にも行っている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人の能力を生かした対応を行っている。離れている家族とのやりとりを見守っている。		離れて暮らす身内には、定期的にやりとり出来るような取組も考えていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	元暮らしていた町内会の方からの誘いがあったり、友人が気軽に訪れている。傾聴ボランティアも受け入れている。		今後も継続して訪問してくれるよう支援していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束しないよう関わっているが、言葉の拘束も考えられるので危険のない範囲で見守る努力をしている。		ユニット間を自由な空間として意識づけし利用者が気軽に行き来できる工夫をしていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	自室を出入りするたび自分で施錠をする方もいる。やむ得ず玄関を施錠しているがセンサーが反応すると同時に行動するよう徹底している。		玄関はいつでも対応出来るよう各自が鍵を携帯している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室に閉じ込まない配慮したり、夜間は定時巡回や物音に気を配り安全に努めている。		各勤務帯が出勤すると同時に、利用者の所在を確認し安全に過ごせるよう徹底していく。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	所持している物品等の把握をしている。		状態に応じて針、鋏等は所持してもらっている。基本的には預かり人目につかない引き出しに収めている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	月2回火災を想定した避難訓練をしている。転倒が予測される状態の方には家族にそのリスクを説明し了解を得ている。		特に避難訓練は季節に応じた服装で行っている。転倒、転落は「ひやりハット」事故報告書で未然に防げるよう取り組んでいる。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の連絡網を見えやすい場所に掲示し対応に備えている。		急変時の対応としてAED研修を全員受講している。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を繰り返し実施している。		地域住民に協力が得られるように働きかけていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	その都度家族に伝え、食欲、体重減少、嚔下困難、転倒等の予防策に家族と相談しながら対応策に取り組んでいる。		今後も、家族とリスク対応について話し合い他機関、他職種への働きかけをし協力を求めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>申し送りや夜間の巡回を徹底し早期に発見できるよう努めている。</p>	<p>利用者の高齢化が進み、より具体的に対応の緊急性を解明する必要がある。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>仕切のついたケースに区分けし、3段階で確認している。下剤については状態に合わせて内服を調整することもある。</p>	<p>一人ひとりが薬を服用してくれているかどうかの確認をしている。特に下剤の服用後は排泄と便の質の把握に努めている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>野菜食と水分補給に努めている。便秘傾向にあり下剤を増やしたり、減らしたりが多い。</p>	<p>飲物の工夫と身体を動かしてもらう工夫を考えていく。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>高齢者における口腔ケアの大切さを理解しケアの中に生かしている。</p>	<p>毎食後のケアの徹底。毎月歯科医師の往診と衛生師による口腔ケアに取り組んでいく。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>温度板を活用し、毎日の記録に残して把握、次につなげている。</p>	<p>今後も継続していく。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>委員会を設置し、家族にインフルエンザが発生した時点で緊急に対応し予防対策を実行している。玄関口にマスク・消毒液を設置し面会者の協力を得ている。</p>	<p>今後も、感染症の知識を深め現在行われている予防策を継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日使用する調理用具の消毒の徹底し週1回は使用している食器類の消毒をし衛生に努めている。		今後も継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	足の不自由な方のために椅子を用意している。夏場は花を飾り話題づくりに一役買っている。		今後も庭でくつろげるように環境を整備していきたい。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各ユニットの廊下に行事や外出した時の写真を掲示していつでも見られる工夫もしている。観葉植物や動物の置物で心が和んでいる。		今後も和んでもらえるように工夫をしていきたい。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	座る位置などだいたい決まっていて利用者同士で語り合っている。		新聞、テレビ、ビデオ、カラオケ、本等で自由に楽しんでいる。
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一時体調を崩した方の見守りが必要で安全のため家具の位置を移動したことがある。以前の生活習慣を活かした道具を配置できるよう家族と相談している。		今後も状況に合わせながら調整していく。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝5～10分の換気を行っている。温度計を設置し変動がないよう気を配っている。		気になる臭いが出ないように汚物はビニール袋に入れ密閉し持ち運びするよう徹底している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>嚙下機能が低下してきた利用者に合わせて食卓の位置の工夫をしている。</p>	<p>歩行で疲れて、転倒ないように廊下に椅子を多く配置している。また、立ったり座ったり、し易いように椅子での生活を工夫している。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>危険のない限り行動制限をせず、動きや迷いに即した対応を心掛けている。</p>	<p>動きや迷いの中から本人が望んでいることが発見できるため、この場面を大切にしていきたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏場は陽よけにパラソルやテーブルを設置しくつろげる工夫をしている。</p>	<p>プランターの花壇作り、七夕祭り、外でのジンギスカンで楽しみ。ホーム横では野菜作りに取り組んだ。</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 毎月、行事計画を立てその季節に似合った行事を取り入れることで、季節感を味わってもらえるよう取り組んでいる。それ以外にも外出の機会を確保し、映画館や回転寿司、デパートの飲食店で好きな物を頼んで食べてもらったり等、外出の機会が増えるよう取り組んでいる。今後も外出の機会を増やして行くことで、地域との交流機会を増やしていきたい。